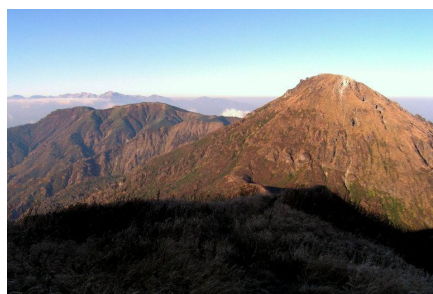


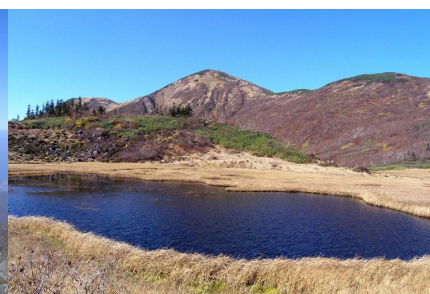
# 焼 山 山 行 記 録



焼山と北アルプス



焼山山頂



天狗ノ庭から火打山

目的地	焼山（火打山～焼山ピストン）	期 日	平成20年10月18～19日（土・日）
山人	笠原正雄単独	特 記	今シーズンに於ける一つの目標山行：両日とも快晴

地 点 名	時 刻	記 事
<b>18日</b>		
与 板 発	午前 9:00	YHC 田村さんの店に寄って出発の報告。全部下道。R18でソースカツ重定食。
笹ヶ峰 P	午後 1:25 発	路上温度計最高値 26℃。入山ゲート付近に駐車、駐車多数。下山者が続々来る。登山届箱に「焼山には立派な道があります」とマジックで書かれていた。
黒 沢 橋	2:05～2:10	歩き出して途中から木道が続く。残雪期のコースがイメージ出来ない。雲一つ無い快晴で長袖シャツ一枚でも汗がにじむ。渡り終えて2本杖。
十二曲り標柱	2:40	急登中の小広場。どんどんと下山者。
山頂まで 3 / 9	2:45	ブナ帯にオオシラビソが混じってくる。石をつめた土嚢と階段の道となる。
黒沢池分岐	3:25	この手前、最近敷設されたのだろう、挽き糠と木の香が漂う階段登り。
黒沢岳トラバース	3:35	下りとなる。日差しは暖かいが、陰るとヒンヤリする。手前で最後の下山夫婦。
高谷池ヒュッテ	4:00 着	棟が見えるようになってから約 20 分で到着。野営受付へ（一人 400 円）
夕 食 へ	4:50	大小あるが 10 張以上。テント設営後、水場上の朽ちかけたテーブルベンチで、飯山市からの夫婦と会話しながら、餅ラーメン。落日後、急速に寒くなる。
テントへ戻る	6時過ぎ	少し横になり、のち、残りの焼酎お湯割り。足先が冷たい。ビールと寒さのせいかな何度もオシッコ。夜中は月明かり。霜が降りてフライがゴワゴワになる。
<b>19日</b>		
起 床	午前 4:00	3時からラジオ深夜便で演歌を聴く。α赤飯で朝食。サブザックに日帰り用具を移す。歩き出すには少し早いので、テント内でグズグズ過ごす。
歩 き 出 し	5:20	草木と木道に降霜、指先が冷たい。頭電で出発、天狗ノ庭で明るくなる。
雷 鳥 平	6:20	登路地面が凍土となっている。暖かくなってここでヤッケ脱ぐ。
火 打 山 山 頂	6:40～6:50	先行単独男 3 人が居た。目指す焼山は勿論、後立山から槍の穂先、そして南アルプスも雲の上に望める。影火打へ向かう。10分降ろされて鞍部。
影 火 打	7:05～7:10	登り返しはさほど苦では無かった。かろうじて読める標識が足元にある。ピークは顕著で無く、僅か登下降で横移動。この辺りで、灌木刈払いの古い切り口に混じって、今年のものと思われる新しいものがある。カッターシャツを脱ぐ。
下 り に 入 る	7:15	洞抜けの下りに入る。強い下りで、残雪期には緊張を強いられるだろうと思った。また、帰りの登りが思いやられた。正面の焼山山腹の噴火音が聞える。
洞 抜 け キ レ ッ ト 最 底 鞍 部	7:50	コブ山の手前が最低標高。およその標高差で火打から 460m、焼山まで 410m。コブ山を上って笹ダンゴを食べる。目の前に焼山が近づく。
		正面に見えていた所を登るのではなく、下りをも交えて左方向に回り込みながら緩やかに進む。背後から日差しを受けて、自分の影が右前方にくっきりと落ちている。登りに掛かると噴煙臭が漂って来た。
喬 灌 木 を 抜 け る	8:40	雑木の登りも標高が上るにつれて傾斜が増して来る。ここまで来るとマーキングが小刻みに左右に方向を変えながら導いてくれる。この登りで、もうすぐ山頂かと思われたが、なかなか長く感じた。
焼 山 山 頂	8:55～9:25	見えていた噴出口の反対側の稜線に上る。すぐに三角点。そして最頂部は溶岩の固まりである。裸根根に笹温泉からの道が見える。裏金山ルートも尾根上にはっきりとトレースがある。佐渡までは見えなかったが、海岸線を追うことも出来た。日差しはあるが、風が寒くカッターシャツを着る。泊岩からの上山口付近に進み、風を避けて腰掛ける。白角缶。オイナリさんを食べる。
上山者とスライド	9:30	下山を始めるとすぐに一人上がって来た。火打山頂以後初めて人に会う。真川に降りて笹ヶ峰まで 40 分歩いて戻る、来た道を登り返す気にはなれないと云う。
暖 か く な る	9:50	下りではマーキングを見失い易い。一度数歩間違う。途中カッターシャツを脱ぐ。

コブ山ピーク	10:30	何度も振り返りながら来た道に戻る。ここで腰を降ろして笹ダンゴを食べる。
長袖シャツ一枚	10:35	更に暑くなり、重ね着の赤Tシャツを脱ぐ。5分後、軽装男2人隊とスライド。
朽ちた看板	10:50	影火打にあった物と同じ小看板が登路に倒れていた。朽ちて読めない。
単独男とスライド	11:15	同年代。割と容易に行けると思っている様だった。自分の要した時間を話す。
影火打	11:30	水を飲む。火打山の人の動きが分かる。
火打山山頂	11:50~12:00	沢山の人があった。何人かが、山座同定を楽しんでいる。一人が焼山迄かと聞いて来た。ビールが恋しくて急ぎ足で下る。雷鳥平付近の道は凍土が緩んで泥んこになっていた。しかし、陽の当たらない場所では解けきっていなかった。
高谷池ヒュッテ	12:50~1:35	俺のテントが残っているのみ。朝霜がついていたそれはすっかり乾いていた。そそくさと丸めてヒュッテ前のベンチに運び、先ずはビール 500 円。甘露カンロ。団体が下山して来て一時賑やかになったが、比較的静かであった。
黒沢池分岐	2:10	本日泊と思われる人がポツポツ上がってくる。
十二曲り標柱	2:45~3:00	空腹を感じ、腰を降ろして残ったオイナリさんを食べる。同年代男が降りて来てやはり腰を降ろした。ズボンの上から右膝にサポーターを着けている。紅一点の若者隊10人程が通過下山して行った。
黒沢橋を渡る	3:20	沢を上って木道に乗った所で2本杖収納。単独男が追い越して行く。
登山口	4:00 着	下の広いPには多くの車があったが、ゲート付近Pは数台のみとなっていた。1台を除いてすべて県外車である。下山報告を記入。
帰宅	6:30 着	笹ヶ峰林道の紅葉が盛りだ。杉野沢のいつもの露店でブナハリタケともう一種のきのこを買う。懐かしいナツメも買って自宅に下山電話。今度は西山ICまで高速道を進む。帰宅後即入浴。早速キノコ汁を食す。

2年前に登山禁止が解除されてから、行って見たいと思っていた。今年に入ってから笹倉温泉ルートで登っている加茂市のまことさん夫妻と、8月23日に笹ヶ峰でテント泊し、翌日杉野沢橋から日帰りするつもりで出掛けた。ところが、当日は未明から雨が断続的に強く降り、残念ながら諦めて北野美術館を訪ねて帰って来た。

その後、まことさん夫妻は同コースを制覇された。一方、山仲の加藤女史も「魚沼の山」のhiroさんと杉野沢橋からスタートして、火打山を周回縦走している。両人のブログ等を参考にさせて貰い、今回の山行となった。

杉野沢橋からの日帰りピストンも考えたが、お天気続きの週末となり、ゆっくり山を楽しみたいと思い、今コースに行くことにした。火打山から焼山間は、刈払いもされており、なんら問題なく進めた。また、標高差から考えれば当然だが、行きよりも帰りも方がやや時間がかかっている。

絶好の日和に恵まれて、好展望を存分に楽しんだ。しかし、久しぶりの長丁場で、筋肉痛は残らなかったものの、木道歩きが多かったせいかも知れないが、足裏の痛みが数日続いた。